



江別市議会議員

岡英彦 市政レポート

無所属

16年間ずっと、政党に所属せず活動しています。



市立病院、病床数削減の議論へ

市立病院は、2016年以降、総合内科医の退職が続いたため経営状況が悪化し、経営再建が求められていました。ここ数年は、国からのコロナ関連の補助金により黒字になるなど一時的に経営の改善が見られていました。

しかしながら、コロナ補助金の終了に伴い、2024年度に8億6千万円の赤字となり、2025年度も7億4千万円の赤字が見込まれるなど、病院経営は再び危機的な状況となっています。

これまで、医師確保を前提とした経営再建計画がつくられていきましたが、現実的には実現が難しく、2025年度の予算審査において、市長は、収支均衡について抜本的な対策は見いだせておらず、先を見通すのは難しいと答えています。

市立病院の経営再建の点検・評価を行う外部委員会の議論では、病床数削減の必要性を指摘する意見も出ており、2025年度に実施される経営強化プランの見直しにおいて、医療機能と病床規模の最適化を進める方針が示されています。

経営改善のためには、現在提供されている医療機能の縮小が伴うとしても、病床数の削減や診療科の統廃合は避けられないと考えられます。

※ 市立病院は、民間病院では不採算とされる場合が多い救急医療、小児医療、周産期医療、精神医療を提供しており、それらを支えるために、市は毎年、一般会計から補助金を支出しています。収支の悪化に伴い補助金額は拡大しており、2025年度は過去最大の17億円の支出が見込まれています。

※ さらに、2024年度は補助金に加え、資金繰りのために、市の一般会計から4億円を貸し付けています。これまでの累積貸付額は25億円に膨らんでおり、現時点での返済の見通しは立っていません。





財政難の北見市と江別市の比較



昨年後半以降、北見市の財政危機が報道される機会が増えています。人口規模がほぼ同じである江別市と比較すると、北見市は市町村合併により江別市の 7.6 倍となる道内最大の面積を有しており、公共施設や道路、上下水道といったインフラの維持管理に多大な費用がかかっていると考えられます。



人口一人当たりの比較では、北見市は江別市に対し、公共施設の建物面積が 2.5 倍、一人当たり借金残高（地方債残高）が 3.3 倍、一人当たり借金返済額（公債費）が 2.9 倍となっています。



借金が膨らみ、返済が大きくなると、財政難になっていくことが分かります。

項目	江別市	北見市
人口	11万9千人	11万2千人
面積	187m ²	1,427m ²
一人当たり公共施設	3.1m ²	7.7m ²
一人当たり地方債残高	30万円	101万円
一人当たり公債費	3万円	8万7000円

出典：R5年度財政状況資料集、R4年度公共施設状況調



保育園整備の考え方？ 2024 年 12 月一般質問



岡：江別市における 30 代の働く女性の割合は上昇傾向にあるが、全国平均よりも低く、今後、ますます上昇すると考えられる。さらなる保育園の整備が必要な状況であると認識するが、市として、どのように考えているのか？



子ども家庭部長：2024 年度においては、育児休業が明ける 0 歳児と 1 歳児、女性の就労が増加している 2 歳児、地域型保育施設からの転園が発生する 3 歳児の保育ニーズの高まりによって定員の不足が生じている。



4 月 1 日時点で国定義の待機児童が、3 歳児で 9 人発生したほか、特定園を希望するなどによる潜在的待機児童は 113 名、前年度比で 27 名増と、増加の傾向を示しているところである。



現在策定中の計画では、利用量の見込を算出するにあたり、直近の人口動態や大規模な宅地造成等を踏まえた対象年齢児童の人口推計を基本に、近年の子育て世代の就業率の増加も加味して推計している。



その結果、2025 年度からの 5 年間で 230 人の定員増を計画しており、特に、1 歳は 54 人、2 歳は 46 人、3 歳は 30 人の定員増を見込んでいる。



計画は、今後の人口動態や保育ニーズの動向を適切に把握した上で、各施設とも協議しながら、必要な定員を確保できるよう、適時、見直しを検討して参りたい。



編集・発行 岡英彦と考える会

〒069-0811 江別市錦町 2-3-102

電話：011-384-2705 FAX：011-378-963 メール：info@ebetu.jp

2025/春号

